

「教師の資質能力に対する客観的な現状把握及び的確かつ客観的な
研修・学びの成果確認方法の確立」

調査の概要

◆課題認識

教師の学びの実現に向け、教師が自らの学びについて客観的に把握することや、管理職等が各教師の学びの状況や成果を客観的に把握し適切に評価する必要がある。

◆調査研究の目的

教師の現状の資質能力を的確に確認する仕組みや、研修成果に関する評価項目や成果確認方法等を検討するため、教員の評価作成にむけた評価項目を整理することであった。

◆調査研究の方法

文献調査を行い、先行文献等により示された具体的な「評価項目」「成長段階の違い」を抽出・可視化した。その後、有識者（3～5名）及び小学校の教師（36校・72名）へ意向調査を依頼し、評価項目に対する内容的妥当性を確認した上で、最終的な評価方法に関する枠組み構築を目指した。

取組のポイント

① 全ての教員育成指標を統合

47都道府県教育委員会、20指定都市教育委員会が策定した教員育成指標の全大項目を抽出・統合した。なお統合にあたり「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」で示された5つの柱を借用し、そこに2つの視点を加えた全7つの大項目から整理・統合を図った。

② 多角的視点による

内容的妥当性検証を実施

3名の有識者・43名の小学校教師から、評価項目として内容が適切であるか、網羅できているかを確認いただき、その結果を反映した。

取組の成果

67自治体の教員育成指標の大項目は457の要素へ集約されたが、内容的妥当性検証後、97の要素が追加され、全554項目からなる評価方法に関する枠組みが構築された。

大項目	統合後の項目数	検証後の項目増減数
① 教職に必要な素質	163	+12
② 学習指導	68	+15
③ 生徒指導	67	+14
④ 特別な配慮や支援を要する子供への対応	26	+17
⑤ ICTや情報・教育データの利活用	12	+15
⑥ 学級運営	23	+12
⑦ 学校運営/連携・協力	98	+12

▼統合した教員育成指標（大項目⑤の例）

⑤ ICTや情報・教育データの利活用
■ ICT活用の意義理解/情報モラル
■ ICT活用（能力）/情報活用（能力）/ICTの効果的な活用/学習改善のための教育データの活用
■ 情報教育（の推進）/ICTを用いた指導法（の向上）/情報機器・教材活用//ICT・教育データを活用した生徒指導
■ 学校の情報管理/様々な教育課題（校務におけるICT・教育データ活用）への対応

▼2回の意向調査をへて完成した評価項目（大項目⑤の例）

⑤ ICTや情報・教育データの利活用
■ ICT活用の意義理解/情報モラル/ICTに対する苦手意識の克服あるいは克服における前向きな姿勢
■ ICT活用（能力）/情報活用（能力）/ICTの効果的な活用/学習改善のための教育データの活用
■ 情報教育（の推進）/ICTを用いた指導法（の向上）・指導力/情報機器・教材活用//ICT・教育データを活用した生徒指導/著作権指導/デジタルシティズンシップ教育（デジタル市民権）指導/情報モラルを指導する能力/ICTを利活用した授業実績（内容・時数）/ICT活用が効果的かどうかを振り返る力（学習指導及び教師の業務において）
■ 学校の情報管理/様々な教育課題（校務におけるICT・教育データ活用）への対応/ICTを用いた業務改善/個人情報管理/著作権管理/クラウド活用のリテラシー/学校からの情報発信（HPやブログ、メール配信）の改善と継続的運用/ICT活用の先にある教育DXへの理解（ゴール、ステップ）
■ 校内外におけるICT機器関連の研修参加/授業に活用するためのICT端末の効果的な活用に関わる研修実施
■ ICT支援員の適切な活用

本枠組みの活用

本枠組みを参考に教師の評価項目を決める際は、教師の個性を活かし、また積みたい経験の方向性あるいは喫緊に迫った課題への取り組み等を考慮した上で、どの視点をより重点的に評価するのか重みづけをしながら、目標設定する方法が考えられる。

言い換えると、本調査結果は教員の成長段階や小学校、自治体ごとの実態を鑑みて評価項目を設定するための資料として活用が期待できる。